

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事件事例
2. 体験した事例の名称	三連はしごの伸梯時における負傷事例について
3. 体験した事例の中心的要素	三連はしごを二人で設定中、伸梯した後引き綱を結着するため横さんの中に腕を入れたところ二段目が落下し、前腕を挟んだ。
4. 体験した事例の原因・理由	引き綱を操作する隊員の位置からでは、ストッパーの下方しか視認できず、ストッパー外しが死角となり、第一段目の掛け金の確認が確実に出来なかった。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18年 9月 3日 午後 2時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	演習訓練、 [ 火災、 ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	器具操作訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 49 ]歳、勤続年数[ 25 ]年、現場経験年数[ 16 ]年、階級[ 消防司令補 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者B	年齢[ 53 ]歳、勤続年数[ 32 ]年、現場経験年数[ 32 ]年、階級[ 消防司令補 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 機関員 ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	Bと共に三連はしごの伸梯を始めた。	
経過2	B	Bは補助員としてはしごの取っ手を持った。	
経過3	A	引き綱を引き、二段目を伸梯し第一段目掛け金のストッパーを色別確認し、「第一段目掛け金よし」と呼称した。	掛け金外しが作動せず、第二段目のはしごが上に乗った状態で止まった。
経過4	B	Aの呼称を聞き、確保位置から掛け金が視認できずに「見えていない」とAに伝えた。	Aには聞こえていない。
経過5	A	引き綱を結着するため、両腕を横さんに入れたところ、二段目のはしごが落下し左前腕を挟んだ。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。資機材の不機能が適切だった。資機材の操作がうまくいかなかった。周囲の視界が確保できなかった。後方からの監視の目が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
---------------------------	-----

・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	
・活動に対する経験が不足していた。	

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	
・悩み事があった。	

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：防火衣を装備し、空気呼吸器を着装しての操作であったため、情報への視界がヘルメット等によりさえぎられた。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

隊員相互の確実な意思伝達と、指揮者及び周囲の隊員による安全管理の徹底。また資器材の取扱いを再度基本から行い、安全・確実な取扱いに徹するよう反復訓練する。

○装備・資器材の対策について

資器材の細部に至る点検整備を常日頃から活動に支障ないように意識して実施する。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

実働隊員間の呼称の確認及び、指揮者の指差し呼称による確認の徹底。